

令和7年度 南房総市総合教育会議 会議録

1 日 時 令和8年1月30日（金）午後4時00分開会～午後4時53分閉会

2 場 所 南房総市役所丸山公民館 2階中会議室

3 出席者 市長 石井 裕  
教育長 三幣 貞夫  
教育長職務代理者 岡崎 俊明  
委員 庄司 美佳  
委員 渡辺 祐子  
委員 稲葉 泰

4 事務局 教育次長 平井 雅也  
参事 林 明正  
教育総務課長 永井 政明  
学校再編整備課長 鈴木 守  
子ども教育課長 井野 秀文  
生涯学習課長 根形 貴洋  
教育総務課課長補佐兼総務係長 宇山 尚希

5 開 会 平井教育次長が開会を宣言

6 市長あいさつ

7 協議・調整事項

「20年間の教育行政を踏まえての本市の教育課題」について

(自由討論)

岡崎教育長職務代理者

感想のようなことからお話させていただきます。私は3期で12年、もうじき12年経ちますが、ずっと石井市長と三幣教育長のもとで見ていると、そもそもこういう総合教育会議が出来た経緯とは全く違う、本市の素晴らしいところが見える会議といえますか、一端が見えるところで会議をして、素晴らしいと感じておりました。そもそもこ

の会議が出来たのは、市長部局の方と教育委員会の方と意思疎通がうまくいなくて、問題が顕在化してきたので、きちっと正していこうということで、市長の方に教育の内容について連絡し連携し、リーダーシップを取っていただくような形にしようということだと思いますが、そうするまでもなく、私が12年間見ている範囲では、石井市長と三幣教育長のタッグといいますか、この教育への気持ちはですね、千葉県の50いくつかある市町村の中で、No. 1じゃないかなと思っています。強い市長と強い教育長が、お互いに腹を割って話をしながらその方向性を探っていく、一つの方向に向いていて、本市の教育行政は素晴らしいなと思っています。具現化している事業そのものを見てもそうですし、今石井市長のお話を聞いていても、先ほどの教育委員会会議で教育長の話を聞いていても、そういうふうに感じました。今後、ご勇退されます市長の後に、どういう行政が行われるのかはまだ見えませんが、ぜひこういった連携を進めてきたことについては、継続していければなと強く感じています。

#### 庄司委員

私も多分教育委員の中で一番長く在籍させていただいて、力もなにもありませんが、本当に市長と教育長の連携のもと南房総市の教育の一員として、学校の統廃合やバウチャー券とか、いろんな政策を目の当たりにさせていただいて、子どもたちもこの20年と考えたときに、下の子は小学校に入るときから石井市長のもと、南房総市の教育の中で育てていただいて、また学校給食の米飯給食とかでも、一番体力的に成長する中学校のときにお米の給食で、部活動もやっていたので体力が持つといいますか、勉強の方にも力が入って、最初子どもたちは文句を言っていました、やっぱり違いを知っていると、ソフト麺が食べたいとか、揚げパンが食べたいとか、いろんなこと言っていました、最後は素材の味がわかる、出汁をちゃんと取ってもらえているというのがわかると自分で言っていて、本当にいろいろな面で南房総市の教育のもと、子どもたちを支えていただいて、本当に感謝しかありません。毎回会議に向けて、何を言ったらいいのだろうといつも考えてしまって、ちょっとしたメモ書きを毎年書いてあったのを昨日から見返していましたが、一貫して私は生涯教育の大切さみたいなことを言っていて、南房総市はどんどん子どもの数も減っているんで高齢者が多く、でもその元気な高齢者をいかにもっと元気にして、その元気な高齢者を見て、大人とはとても楽しいものだ、いいものだというふうに子どもたちが思ってくれて、それで生きる力というか、大人になってみたいとか、勉強してみたいとか、そういったものに繋がるのかなというのをずっと思っています。生涯教育というものが大切だなと思っていて、去年のメモとかその前のメモとか見ても、そんなことばかり言っているなと思いました。市長のおっしゃっていた、弱者へ力をつけさせてあげたいとか、学力を高めていくというのも、子ども

の数は減っていますが、大人の数はたくさんいらっしゃるので、そういう人たちの力をいかに入れていくか、学校の中にどんどんそういう社会人の教室をどんどん増やしたりしたら、お互いにいいのかなと、そんな夢を持っています。

平井次長

どうもありがとうございました。庄司委員からは学校給食と生涯教育についての感想意見等がありました。もしよろしければそれに関連したご意見等々があれば頂戴いただきたいと存じます。

渡辺委員

私も教育委員3年目で、今まで当たり前を受けてきたものが教育委員会にあつて、その恩恵を受けてきたのだなというのを感じています。幼稚園に入る前に子育て支援センターでお世話になり、幼稚園に入り小学校に上がってという中で、本当にたくさんお世話になっていたのだなと、教育委員になって初めて感じることもたくさんありました。実家に帰ったときに、千葉市なのですが、子どもがいる友人と話をしたときに、本当に南房総市は恵まれているのだなと感じることが多くて、この中にいたら気づかなかったことも、外で聞いてみると本当に恵まれた場所で子育てができているのだなと感じております。親としてやっぱり漠然として不安なのは人口減少で、学校のクラスの人数がどんどん少なくなっていってしまつて、部活動もそうですが、学校行事とか運動会・文化祭はどうなっていくのだろうという不安があつて、多分お子さんが小さいお母さんやお父さん方も感じていることなのかなと思います。私が個人的に感じていることですが、子どもとの関わりの中でもそうですが、高齢者の方との関わりの中で気づいたことといえますか、南房総市は7つの町と村が一緒になっていて、広いので何かこれをしましようというときも、全部のところではできないこともあつて、その中で感じるのが、地区の図書館をもっと多様な使い方ができたらいいのかなと感じています。学力を高める場所にもなるし、弱者の居場所的な役割も果たせると思うし、あと高齢者の方々の居場所、出かける場所になるような、どちらの可能性もある場所なのかなと感じていて、もっと図書館がわくわくする場所、行きたい場所になればいいなと感じております。まとまりませんが以上です。

平井次長

どうもありがとうございました。渡辺委員からは具体的な例示といたしまして、図書館の魅力の発信などという意見があつたところでございます。4月にはわかるように、「いこっと」がオープンしますので、どうぞお楽しみにということでございます。関連した形でも結構ですが、委員の皆様からご意見などを頂戴したいと存じます。

## 稲葉委員

私は地元で嫌われていたせいなのか、60歳を過ぎてもずっと千葉の方に通っておりまして、ちょっと叙情的な話になりますが、60歳を過ぎて通っているときに、「ふるさと」と言う歌、「兎追いし」のあの歌が好きになりまして、2番の歌詞が「如何に言います父母恙なしや友がき」田舎にも友達が残っているのですね。3番が「志をはたしていつの日にか帰らん」という。僕も2番はよく知らなかったのですが、これは長野県の方が作った歌で、山ですが、非常に南房総市にも当てはまるなと思いました。だんだん少子化でいなくなっている中で、先ほど市長さんあるいは教育長がよく言っていますが、子どもたちが教育・学力を身につけて、日本へ出ていく、あるいは世界へ出ていくと、だれども最終的に「いつの日にか帰らん」というのは、地元に戻ってくるということもあるでしょうし、地元のことをいつまでも思うという、そういう子どもたちを育てたいと、そういう中で地域連携だとか、地産地消の給食ですとか、米は市長・教育長の好みなのかなと思いますが、先ほど話にあった特別な支援を要する子どもたちを大切にす、あるいは学校に行けない、なかなか行きにくい子どもたちを大切にすという、人的にも相当手厚くされていると思います。ちょっとよその市のことも多少見てきましたが、市によって予算規模が全然違いますよね。そういう中でも弱者とおっしゃっていましたが、そういうお子さんに対する手厚さ、おおよそ見てもこんなに手厚くやってくれているのかと思いました。そういう子どもたちがいつの日か、将来この南房総市でよかったと、この教育を受けてきてよかったというような思いを持ってくれればと、そういう教育をされているなということをすごく感じます。こういうことを多分教員研修の中ではしっかり今周知しているのかなと思いますが、市民の皆さんにもどんどんご理解していただけたらいいなと感じました。

## 平井次長

どうもありがとうございました。教員への研修ということでちょっと難しい課題かなとは思っていますが、他に何かご意見等々あればお願いをしたいと思います。

## 岡崎教育長職務代理者

庄司委員が言った、元気に活躍している大人の姿を、子どもたちは見て学んでいるということですが、実際どのくらいの規模で学校の教育活動の中に地域の人たちが入っていて、活動あるいは指導をしているのかということが自分はわかっていますが、地域によって違いますでしょうか。富山地区はかなり入ってらっしゃいますよね。そういうのはすごく大事ななというふうに思います。子どもたちだけのコミュニケーション、子どもと先生だけの関係ではなくて、そこに大人が入っていくことによって、今まで子ども同士ではうまくコミュニケーションが取れなかった子ども、もっとうまく大人の中に

入ってできるケースもあるかもしれないし、何かきっかけになるかもしれないし、なるべく地域の人たちが、学校教育の中に入って来るシーンがあるといいかなというふうに思います。具体化するのとはなかなか難しいかもしれませんが、南房総学というのが一番関わってくるのかなと、それ以外にも何かあるのかはわかりませんが、そうつくづく思います。地域の人が学校に関わる仕事をできるというふうなというふうに思っています。

### 三幣教育長

今に関しましては、富山学園が一番地域の人が入っています。来年度はコミュニティスクールにしていこうということで、PTAをどうしても残したい学校はそれでいいわけですが、コミュニティスクールにしていって、それで地域の人たちが常時学校にいて、何とか委員会というようなものを立ち上げて、その人たちを中心に、場合によっては他の人を巻き込んでやるような、富山がそういう形だと思いますが、そういうような形にしていきたいなと思っています。もう一つの理由が、PTAの役員をくじで決めるとか、そういうような状況になってきています。学校を一緒に支えて、あるいは学校と一緒にやっとうという気持ちは薄れているので、これは子どもたちに関わってやっとうというふうな人たちを中心に、地域とも学校とも共同して、そういうものやっとういこうかなという考えは持っています。ただ今までやらなかったのは、東京都に見学に行きましたが、その様子を見ていたら、校長の脇におかれていました。学校何とか委員会の委員長と副委員長がたまたま女性の方2人でしたが、その方が10年やっていて、その人たちが全部仕切っていました。教育内容、教育活動、そういうものを反省しながら南房総市に適したコミュニティスクールと、地域を巻き込んで地域の力を生かしていくような、そういうような形を考えていったらいいかなと思っています。岡崎さんがおっしゃったような内容になってくるかなと思います。それとは別に、私は16年お付き合いしたというか、付き合いがあったって言ったら失礼ですが、1番やっとういて楽というのはおかしいですが、個別具体的な政策だけが出てくるわけじゃないということです。その背景が、さっき市長が4つ話をしたような教育に対する思いとか理念とか、そういうものがあって、その他が出てくるということで、非常に具体的なもので考えやすかったです。今回市長選に出ようとしている人たちの中の1人は、公約の一つが、毎週水曜日は麺とパンをやるとか、その根拠は何かという。ただそのこと自体の目新しさとか、そういうことを考えているのかなという。どう考えてもその根拠は全体を持っても考えつかないわけです。あるいは、もう1人の人は、白浜小学校の統合は一旦白紙に戻す、白紙にするというような表現でしたが、1学年4人、5人の子どもがあと3年ないし4年たったら小学校に入ってくる現実があるのに、一旦ここで白紙にするという、このままでもいいという考えを持っているのか、その辺も周囲に迎合しているような、単

にその政策だけで言っているのかなと思います。私にとっては理念的なものあるいは向かう方向性みたいなものが理解できたので、そういう面では非常にやりやすかったかなと思っています。ただ私の中で申し訳なかったというのが一つありまして、最近麻生太郎の本読みまして、麻生太郎が40年ぐらい前に公約で掲げたのが、大学の誘致でした。飯塚市の炭鉱が廃坑になって、敗残になって、産業も落ちてきて、そこに大学を誘致するという。そういうときに周りは何を考えているのかというような反応でしたが、国立の情報学科を誘致してきて、今はそういう関係の民間の会社だとか、研究所だとか、そういうものもできてきているということで、発展してきています。もう一つの側面が、その子どもたちが高等教育で学ぶ姿を身近で目の当たりできるという、その効果が大きいということがここに書いてあります。市長がおっしゃりませんでしたでしたが、もうずっと英語関係の専門学科とか、短大とか、そういうものを南房総市に作りたいという。いろいろありましたが、いわきの鹿島学園の話もありまして、私はちょっと無理ですと言いましたが、小中学校でバカロレアの教育課程でやろうとか、つい最近はインターナショナルスクール、それは人口を増やすとか、そういう意味も当然出てきますが、高等教育機関が市内にあるということの良さというのが、私には強く感じられなくて、これが実現できなかったということは、非常に申し訳ないと思っていますし、市長もそのあたりは極めて残念だったのかなと思います。その辺のことは市長にもう1回ここで聞いてみたいところです。高等教育機関が南房総市にある、あとはどのような考えで話をしていたのかというのは、ぜひみなさんがいるところで、職員もいますので聞いてみたいと思います。

石井市長

いずれにしても何て言いますか、学力とか偏った考え方を持つわけではありませんが、グローバルを見ればやっぱり国際社会に通用するような、そういうような基礎的な能力を田舎のこの南房総であっても身につけられる、どこに出ていなくても、そういう教育機会がある環境というのを作ってあげたいなと、そんな思いをずっと強く持っているわけです。バカロレアがいいかとか、何がいいかという、私も不勉強なので、特にそれを導入したら見違えるように良くなるかは言い切れないと思いますが、でも今私はもうこれは感覚的な話になるかもしれませんが、そういう地元の子どもたちが他にそういうような機会を求めなくても、この片田舎でもそういう教育機会を得られるという環境を作る、それは地域のいわゆる活性化とか、振興発展のためにも役立つことでしょうし、地域の活性化とか振興発展ばかりじゃなくて、この地域で生まれた子どもたち自身のために、やっぱりそういう環境があった方がいいと、それを県立高校あたりがそういう役割を果たしてくれればいいですが、これも感覚的な話になるかもしれません

が、申し訳ないですがなかなかそういう機能を果たすようなレベルになってないと思います。だからそうであれば市自らやれたら一番いいかと、そんなふうに思ってきたわけですが、その思いは今でも変わりませんが、でもそういう学校や環境を作るということは非常に難しく、理想でしたがこの20年の中でできなかったというのは、私にとっては残念ではありますが、ちょっとハードルの高い問題があって、致し方ないかなというふうに思わざるを得ないし、でもそういう環境をぜひ作りたかったかと、できればこれからもそういう機会があれば、そういう環境が作れるのであれば、立場はどうあれ協力していきたいかと、こんなふうに感じるところです。県立高校を決して馬鹿にしているわけではありませんが、よく言うところのお医者さんが自分の子どもを医者にするためには、よそに出さないといけないと簡単に言いますが、端的に言うと、今その話に象徴されるような医者にするには、別にここに残っていたって十分医者になれるし、自分の目指すべき教育環境がここにあるよというような状態を、この田舎にも作りたいかと思っています。他所に行かなきゃ医者になれないねというようなことを聞いていると、そのような状況にあることはとても悔しいかと、そのように感じ続けてきました。私の思いとしてはそういったところなんです。広い意味で、ここで生まれ育つ人たち、子どもたちが自身の能力を高める、またひいてはそれが地域の魅力向上に繋がって、地域の振興発展に繋がっていくということで、僕は非常に有益なのかなと思っています。

平井次長

ありがとうございます。他にどのような意見でも幅広くご意見を頂戴したいと存じます。

石井市長

米飯給食でこんなふうに良かったというのを、定量的なものでわかるといいですね。

庄司委員

米飯給食になって部活動の成績が良くなっているとか、学力が上がっているみたいな魅力があればいいですが。

石井市長

なかなか難しいですね。

岡崎教育長職務代理者

肥満率が減ったとかですかね。

三幣教育長

南房総市高かったですが、それは減りましたね。糖質・脂質・肥満とか、そういう傾向が下がってきました。朝日新聞で載せてくれました。

### 岡崎教育長職務代理者

米飯給食に慣れてきた子どもたちが、家でもご飯を食べるようになってきたというのもあるかもしれません。

### 三幣教育長

それは期待していましたが、お昼をご飯にすれば朝もご飯にしてくれるかなと思っていましたが、そこまで波及させていこうとやっていたら、お昼しっかり食べているから、朝夕は手を抜いてもいいかなと言っていました。主に教員は自分が給食を食べていますから、これだけしっかりしたものを食べてれば、もう朝夕手を抜いてもと。ただ夏休みが一番困ると言っています。

### 稲葉委員

僕は日本人として、日本で米というのは主食であって、農家の方が作ってくださっていて、それを学校給食で主食である米をしっかり食べてもらう、科学的にいい悪いはあるかと思いますが、精神的に僕は日本人として米を食べるということはすごくいいことだなと思っています。

### 三幣教育長

ベルギーに行くと、毎朝決まったものしか出ないです。パンと卵と牛乳。あそこは農業人口が3%で、食料自給率が7割か8割ぐらい。要するに自分のところで取れたものしか食べないという。外国に行って、買ってまでは食べないです。だからそこはビールですよね。土地がないからワインができない。本来は自分のところで取れたものを食べるのが基本だと思います。戦後、食料難で子どもたちにアメリカの余っている小麦を食べさせるというのが始まって、パン給食になって、その辺から悲しい歴史が始まったのかなと思います。

### 石井市長

またちょっと話が変わりますが、数日前に全国の市長会がありまして、僕も役員だから出て、いろんな話がいろんな市長さんから出まして、小学生の給食が無償になって、あるところの市長さんが発言されて、関西の県だったかな。うちの方の県ではもう早速小学校は給食無償になったのであれば、中学もだと議会から言われるし、ある市がそれを始めたら、結局同調圧力というか、せざるを得ない圧力というか、プレッシャーでそれを求められて、もうやらざるを得なくなってきたと、要するに首長も人気商売だから結局そうせざるを得ないと言っていて、また市長会でそういう運動したらどうかと、情けない意見を言った首長もいました。そしたらまた別の首長さんがそれとは違った意見を言って、僕はそれが正しいと思っていますが、限られた予算、限られたお金ですから、何に使うかという優先順位を付けていくのはとても大事なわけです。その市長

さんと僕もほぼ同意見ですが、学校給食をタダにするのであれば、それだけ教育現場にかけるお金があるのであれば、そもそも経済的に弱い人たちには、いわゆる要保護・準要保護とか、そういった方はもう既に無償なっているわけで、だから全てを個人給付というような中でタダにするのは、それだけのお金があるのであれば個人給付が弱い人は助けてあげればいいですが、みんなそこまでやる必要はなくて、そのお金があるのであれば、例えばこれから市が無償になって、今後公立学校をどのように質を、クオリティを維持していけばいいのかとか、そういった問題も、より必要性が高まってくるわけですし、なおかつ教員の置かれている職というのでも厳しいものがある、だからというわけではありませんが、教員のなり手も少なくなってきていて、学校給食にお金をかけるなら、そういうような処遇改善にお金使った方がいいのかなとか、そういったことを市長会は真正面から議論した方がいいのではないですかという立派な意見を言う人がいましたが、僕も全く同意見です。地方からもそういった意見を言う機会があってもいいのかなと感じました。市長会でもたまたまそんな話が出て、今までは市長会でも給食を正すべきだという意見が圧倒的に多くて、僕はしら一っとして聞いていましたが、その必要性はないと僕は思っていたので、でもそういう意見をしている人が多いのでなかなか言いづらくて。でもいろんな意見があって、やっぱりお金の使い道というのが非常に気になるところです。市長会でそんな場面があったので、今頭に浮かんできたので口にしました。

### 三幣教育長

数年前に大房岬で千葉自然学校の20周年の集まりがありまして、そのとき市川市の当時83歳のおばあさんが、年商6000億の会社の会長で、夫婦でリアカーを引きながらその会社を始めて、そのおばあさんと話をすることもあって、その人が大きな声で言っていたのが、県とか市町村の首長をやる人はそこで生まれ育った人か、25年以上そこに住んだ人にやってもらわないとダメだと。それは土地に対する思いがないといけない。その思いがないから給食費をタダにしますとか、そういう単発のものを出してきて、それが尽きるともうそれで終わってしまいます。その都市への思いとかそういうものがあれば、次々とやらないといけないことが出てきます。だからそういう人に首長をやってもらわないといけないのだと。そういうのがない人は、2期か3期やると頭が尽きたからもう辞めるという、そういうふうになると話をしていましたが、給食費を無償にするというのは、大体そういう傾向の人が多くのかないかと思いました。何の志も、土地に対する思いも、子供に対する思いもないと思います。

### 岡崎教育長職務代理者

選挙期間中なので話題に出るのが消費税を下げるとか、所得税の話とか、お金のこと

ばかりで、国民・市民は税金が下がって寄付があればそれは助かるけれども、それはいずれ誰がどう見ても働きますよね。給食費のことについては、私もそう思いますし、それにしても給食費は自分が食べるものだし、本来親が作ればいいですが、学校でいろんなもの作ってあげているということで、それにお金を払うのは普通のことかなと思います。やはり現金給付に近いような形というのは、あまり教育の方法としては好ましくない内容かなと思います。

### 三幣教育長

今度議会でまた給食の無料ということでやらないといけないと思いますが、その給食を食べて、給食を見て、量とかではなく、タダかどうかというものの見方しかできないというのは、さみしいなと思います。それで動物あるいは人として、自分の口に入るものを自分で手に入れるとか、生きていく上で基本なわけです。それを食べる分はタダでやるというのは、人間としての弱さに繋がっていくのかなと思います。やっぱり自分が親として辛くても、子どもの給食費は何とか出してやるとか、そういうものが基本にあるのかなというふうに思います。そこまでは議会では言えないので言いませんが、栄養士さんたちに言わせると、親から賄い材料費をいただいているのだから、そんないい加減には食材は選べないし、作れないと言っています。だから親の方も口には出さないですが、口に出しているのは何かと言ったら、給食費を値上げするときに2回とも反対の声は一切なくて、多少高くなっていいから良いもの、安全なものを食べさせてくださいと、これが本来のあり方です。

### 石井市長

今ふと頭に浮かんできたことですが、この教育委員会議で言うような話ではないのかもしれませんが、部活動の外部指導員の人たちがいて、ポジション的にはその都度言いますが、要するにその人たちの報酬についてですが、結構長い時間やってくれている人もいれば、時間的に比較すれば短い人たちもいますが、一生懸命やればやるほどというか、やりすぎなのかどうかわかりませんが、年度末が近くなってくると、予算が足らなくなってくるといような現象があつて、私とするとやりすぎというのが特に弊害がなく、一生懸命やってくれているのであれば、外部指導員の方々に対する報酬は、予算上しっかり確保してあげて欲しいなと思います。12月ぐらいになると、あと1ヶ月ぐらいでなくなりますよという連絡がきて、そうではなくて言い方は変ですが、年度が終わったら予算余ったねというぐらい、そのぐらい当初予算でつけて差し上げた方が、外部指導員たちに対してはいいのかなと思います。教育委員会議で言う話でもないですが、私の感じ方としては、外部指導員にちょっと頑張ってもらっているの。

三幣教育長

部活動でなくすれば義務の話であると、今部活動ということでやっていますので、週1回はウィークデーで1日休み、それと土曜日か日曜日どちらか1日で実施する。それで時間制限もあり、普段の日も働き方改革で1人1人の教員がどれだけ在校したかというのをチェックされています。そういう縛りの中で、当然部活動指導員もやらざるを得ないので、多分近くの人はずっとやりたいと言うかもしれませんが、学校のそういう体制で制限がかかっているの、部活じゃなくて地域展開をして、地域のスポーツクラブとすれば、スポーツクラブの方の責任でやっていると考えられますので、そうなれば可能だと思います。

岡崎教育長職務代理者

今市長がおっしゃられたのは、地域のスポーツクラブですか。

石井市長

いや学校の部活動です。

三幣教育長

部活動指導員という方がいます。

岡崎教育長職務代理者

休日の指導員ですよ

三幣教育長

普段の日の指導員です。

石井市長

そういう指導者が何人かいます。そんなに人がいるわけではないですが、それでも地域移行していくのは一つの過程です。

岡崎教育長職務代理者

そういう方がいらっしゃるとう心強いですよ。

石井市長

ただ制度的なことがおかしいのかわかりませんが、弊害が出てきたら別だけど、そうでなければ一生懸命頑張ってやっているというのであれば、その働いた分に対する報酬は予算がないからここで打ち切りとなるよりは、年度末に予算余ったよねというぐらいの当初予算をつけてあげたらいいのかなと思います。

岡崎教育長職務

一方で、先ほど教育長がおっしゃられた休日の部活動の指導ができるという教員が2割ぐらいしかいないということです、もっといて欲しいということですが、当然その人たちには休日の指導で手当を払うわけですよ。

### 三幣教育長

市長が言っているのは、今の制度だと外部指導員ですが、当然地域に移って、地域のスポーツクラブ的なものになれば、教員は副業としてそれを申請してやることとなりますので、そうするともっと単価を上げて出せるようになります。今市長は保護者負担なしでスポーツクラブとかに参加している参加料とか、そういうのを親から集めるのではなくて、市でやっていきますよということをおっしゃっていただいています。

### 稲葉委員

部活動外部指導員は非常に貴重だと思います。例えば中学校で3時、4時から始めると、なかなか職業も引退した高齢の方とか、職業とびったりあってその時間帯いるよとか、それと事故だとか、責任もあるので、非常にやってくださる方というのは貴重だなと思っていて、確かに報酬等もそれに見合う、何が見合うのかはよくわかりませんが、しっかり出していただけるというのはすごくいいことだと思いますし、教育長もおっしゃっていたスポーツ少年団化というか、地域に移行していく上でも、そういうのをしっかりとやっていくというのはすごく大切だと思います。教員数が減っていく、部活動も数も減っていく、子どもたちにとってやりたいスポーツができなくなってくるというのがありますので、そういう点でバックアップするということは、すごく大切かなと思います。

### 平井次長

すいません、お話が尽きないところではありますが、時間も限られておりますので、協議事項につきましては終了いたします。

## 8 閉 会 平井教育次長が閉会を宣言